



架け橋

教育長 津野庄一郎

保育園・幼稚園と小学校の連携・接続を、より確かなものにする取り組みが全国で進んでいます。「小1プロブレム」（小学校に入学したばかりの1年生が、授業や集団行動に適応できずに、学級全体が落ち着かなくなる状態）が未だ解消されず、深刻化している地域・学校が少なくないからです。

関川村教育委員会は、今年「関川村架け橋プログラム開発検討委員会」（委員長：伊藤彰関川小学校長）を立ち上げました。5歳児と小学校1年生のカリキュラム（2年間）を一体的にとらえ、関川なないろ保育園と関川小学校の関係者がより緊密に連携して、育児・教育のカリキュラムや指導法の充実・改善にあたります。

今月15日には、関川小学校で「訪問研修」があり、新潟県教育庁義務教育課幼保小架け橋センターの松田洋之様・高橋淳様のお2人のコーディネーターを講師にお迎えし、様々な視点からお話をいただきました。村からは保育園・小学校、健康福祉課・教育課の関係者10名が出席。プログラムの必要性、先進校の成果と課題、カリキュラム作成の進め方等を学びました。

幼児教育の重要性が世界的に認知され、義務教育開始年齢が3歳（フランス）、5歳（イギリス・オランダ等はプレスクールへの入学）と早期化する中、日本においても就学1年前と小学校1年の接続は急務です。少子化が進む関川村では、一つの保・小・中という環境のよさを生かし、切れ目ない子どもの育ちと学びを継続・強化することが重要課題であると考えます。今求められている子どもの主体性・探究心・やり抜く力、忍耐力、協働性といった非認知能力を育てることは、その後の学習する力（認知能力）の土台になるからです。関川村にふさわしい架け橋期のカリキュラムづくりに取り組んでいきます。

